

景況実感調査(2017年5月)特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんのコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

[お断り]毎月のコメントはあくまで個々の“生の声”です。業界全体の標準的見解とは、若干異なる場合もあります。また、不適当な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

薄板・表面処理鋼板

- ① メーカーが追加値上げを発表したが、5月に入り荷動きが鈍くなった。ユーザーへの価格転嫁が難しい状況である。ここ最近では原料価格が下がってきており、輸入材の価格動向も注視する必要がある。
- ② 連休明けからの荷動きが昨年に比べても悪く、単価は前年比10%程度UPしているが、売上高は不振な月となった。例年、4~6月期は端境期となり、予算もそれなりに組んでいるが、全体的に財源不足下にある訳で、もう少し引合い数もあるはずだが、1~3月期に手当てした仮需が流通、需要家ともに影響していると思われる。ゼネコンの手持ち工事量も多く、自動車生産計画も前年比増と、マクロ的には需給バランスは中期的にも良好とのこと、夏以降は実需も期待できると思われる。価格も頑張るしかない。
- ③ 高炉メーカーの更なる値上げが実施されて、利益が確保できない状況が続いている。安値でしか販売できない先には商売を断らざるを得ない。

中板

- ① 漸減傾向の在庫レベルとなっているものの歯抜けも無く、品薄感を実感できない。高炉の1/四期再値上げ表明も、連休明け後の流通末端需要家に停滞感が強く、現れてもよい仮需も全く見られず、「ああそうですか」といった冷ややかな反応。流通としては迅速な転嫁が課題であるが、高炉の値上げ趣旨が、これまでの原料高要因から、原材料価格一服により、適正マージン確保要因に移行してきていることも、ユーザーサイドとしては納得、理解できなくなっているようで、今後の対応はかなりの困難を覚悟しなければならないだろう。

厚板

- ① メーカー値上げの転嫁が進まず、厳しい状況である。

形鋼

- ① 昨年5月の荷動きが陰の極みだったので、今年の5月は緊張感を持って対処した。結果、前月比10%以上の増加となった。建設概況が反転した2011年から続いた好況は2015年11月から腰砕けしたが、やっと昨年12月辺りから回復トレンドに入ったのではないかと。秋需を控えて6、7、8月はウォーミングアップの時期ではないかと。

EH形鋼

- ① 5月の倉出しはマイナスだが、状況は変わらない。6月も大きな変化は無く、下期の需要期に備え、市況維持に努める。
- ② 需要はありそうだが、忙しさには反映されていない。したがって、市況も反応しづらくなっている。

異形棒鋼

- ① 2月3月の反動で、5月6月前半は低位横這い。7月は少し動くのでは。単価も横這い。
- ② 製品、原料とも市況は落ち着いたが、連休の影響もあり荷動きは例年以上に悪い。秋口以降の需要増を期待して、ジット我慢の日々である。

平鋼

- ① 荷動きは相変わらず低位横這い。盛り上がり無く、小口中心が続いている。値上げも止まったまま。雰囲気は良くないが、市況維持に努力する。

軽量開形鋼

- ① 素材値上げと需要不振が重なり、今の荷動きの悪さが需要の停滞か、売り負けか見極めが難しい。不安は拭えないが、今は値上が最優先として進むしかない。
- ② 物件が少なく、店売り低調のため苦しい状況だが、高値玉がどんどん入荷してくるので、値上げをしっかりと進めていきたいと思う。
- ③ 前月同様、一部製品のみ受注が多い。例年の繋閑のずれが継続している。

鋼管

- ① 例年に比べれば、やや荷動きは良いものの、低水準での推移に変わりなく、市況も横這いで、6月も大きな変化は期待できない。

構造用鋼

- ① 需要動向については、自動車関連は輸出を中心に全体的に堅調な動きが続いている。建設機械関連は中小型機種を主体として底堅い動きとなっている。下期については不透明であるが、大型機種が多少動き始めている。工作機械も堅調に推移している。店売りについては盛り上がりを欠く状況が続いている。市況については横這い基調で推移している。市中在庫は適正水準となっている。
- ② 連休明けの出荷量が低調で、需要の伸びが感じられない。状況は厳しく、苦戦している。

鋼材全般

- ① 4月は昨年以上の荷動きがあったが、5月に入り出荷量が激減した。5月2週目以降は荷動きが出て来ると思ったが、全く出て来ていない。価格転嫁も予定より遅れており、厳しい。6月以降に期待するが、状況に目立った動きはない。

その他

<スクラップ>

- ① 6月に向かっては様子見状態が続くのではないかと。ここ数年のスクラップ市況は輸出に左右されることが大きく、しかも極端に早いスピード、短期間に大きく動くので先行きが非常に読みにくくなってきている。

<金属表面処理加工>

- ① 5月は予定通り物件物が動いたが、紐付き材の工程遅れがあり、予想扱い量30%減となった。スポットの扱い量は前月と変わらず低調であったが、中旬以降、引合い、成約の動きが良くなっており、6月以降に期待。